

平成 27 年度

国立山口徳地青少年自然の家 子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

とくぢファミリーキャンプ第 3 回目

平成 28 年 2 月 13 日 (土) ~ 2 月 14 日 (日)

体験の風をおこそう



【ねらい】 日常生活の中で、親子でゆっくりと話す機会が少なくなっているのではないかと。親と子どもが「語る」ことをテーマとして設定し、本事業を実施することとした。

【参加者】 大人 16 名 子ども 16 名 (未就学児 3 名を含む)

【プログラムの内容】

2 月 13 日 (土)

- 10:30 はじめの会
- 10:50 なかよくなるための活動①
- 13:30 徳地アドベンチャーツアー
- 16:30 「語らナイト」招待券受取
- 18:30 家族で「語らナイト」
- 21:30 就寝

2 月 14 日 (日)

- 7:15 朝のつどい、清掃、宿泊棟片付け、朝食
- 9:15 なかよくなるための活動②
- 9:30 チャレンジ野外炊飯
(おにぎり、豚汁、バウムクーヘン)
- 14:45 ふりかえり
- 15:00 おわりの会

はじめの会



本所の次長あいさつでは、本事業が「子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業」の助成を受けて実施していること、子どもの体験活動が有効であることを参加者に伝えました。

家族で「語らナイト」

家族ごとに徳地アドベンチャーツアーで立てたテントの中で話す時間を設定しました。家族からはプライベートな空間で親子がゆっくりと話そうと好評でした。



なかよくなるための活動①

法人ボランティアの 2 名の学生が担当しました。本所の徳地アドベンチャープログラム研修会を受講したメンバーです。初対面の親子がなかよくなるための活動を笑顔で進めました。



なかよくなるための活動②

1 日目と同様に法人ボランティアの学生が担当しました。今回参加した 10 家族に対して、面白い動作を言葉とともに隣の人に回していくゲームをして、笑い声があふれていました。



チャレンジ野外炊飯

2 家族が 1 グループとなり、簡易釜戸を使って炊いたご飯で、おにぎり、豚汁、ドラム缶でバウムクーヘンを作りました。竹を使って作ったチョコ味のバウムクーヘンは子どもから大人まで大好評でした。



ふりかえり

参加者には最後にアンケートをお願いしました。子どもたちは、野外炊飯の後片付けの大変さが印象に残ったようでした。このキャンプでできたことに自信をもって家でのお手伝いに活かしてほしいことを伝えました。



徳地アドベンチャーツアー

親子で似顔絵にチャレンジの 1 コマ。保護者は、子どもたちの顔、子どもたちは保護者の顔をそれぞれ描いて記念写真を撮りました。写真は印刷してボランティアから家族へのプレゼントにしました。



【参加者の声】

- 普段はできない野外炊飯やテント張りができた。
- 子供同士の活動を通して、我が子がどのように行動するか見ることができ発見があった。
- 野外炊飯の片付けはとても大変だった。『語らナイト』は家族で話をするよい機会になった。
- 普段、あまり家族で話す時間がないので、ゆっくりと話そうとできてよかった。これからは家族団らんを大切にしたい。

【成果】

○親と子が「語る」ことをテーマに企画したキャンプだったが、夜の活動だった「親子で語らナイト」でのエピソードとして、一人の男の子がお父さんに対して、「お母さんと出会ってくれてありがとう。」と話した。その言葉を聞いた父親は、思わず子どもをハグしていた。その他の家族でも親子で「ありがとう」の会話交換がなされていた。非日常体験をととした活動ではあったが、参加者だけでなく会話を聞いたスタッフを含めて、みんながあたたかい気持ちになることができた。

【今後の展望】

○本キャンプのスタッフふりかえりでた反省をまとめて、その成果を 3 月の小学生から中学生を対象としたキャンプ、来年度の子どもを対象としたキャンプへとつなげていきたいと考えている。